

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群②

むなかたたいしやなかつみや 宗像大社中津宮と

所在地/
宗像市
指定/
世界遺産・史跡

おきつみやようはいしよ 沖津宮遙拝所

フェリーで大島へ向かうと、島の正面に見える赤い鳥居が中津宮です。大島の人々は、沖ノ島周辺で漁を行い、古代から現在まで沖ノ島とともに暮らし守ってきました。およそ1250年前、大島で一番高い御嶽山の山頂で沖ノ島と同じおまつりが行われるようになりました。やがておまつりの場所は、山の麓へと移り、社殿で神様をおまつりする現在のようになりしました。

沖ノ島は「神宿る島」として特別な場所であり、現在も島に上陸できるのはおまつりする宗像大社の神職に限られます。大島の北岸の海を見渡す台地にある沖津宮遙拝所は、沖ノ島を拝むための場所です。ここは沖ノ島に最も近づくことのできる場所で、晴れた日は49 km離れた島影をはっきり捉えることができます。おまつりのときは社殿が開かれ、窓から沖ノ島へと祈りが捧げられます。このように遠く離れた場所から島影を拝むことを「遙拝」と言い、伝統的な沖ノ島のおまつりの形を今に伝えています。



中津宮社殿



沖津宮遙拝所

【もっとくわしく調べたい】

○大島交流館 宗像市大島 901-4 TEL 0940-72-2797

【宗像大社沖津宮遙拝所に行ってみよう】

○大島フェリーターミナルから徒歩 26 分

【宗像大社中津宮に行ってみよう】

○大島フェリーターミナルから徒歩 5 分